

# 親鸞教學

如来の作願をたずぬれば 神戸和磨 1  
——往相回向の行信——

『末法灯明記』の引用と 藤場俊基 20  
親鸞（前）

源信における浄土の問題 内藤円亮 38

---

法然の仏教観 安藤文雄 56

〈共に在ること〉の不思議 古東哲明 72

---

観想と観見 安田理深 85

真宗と真宗学 金子大榮 106

# 70

大谷大学真宗学会

如来の作願をたずぬれば

苦惱の有情をすてずして

回向を首としたまいて

大悲心をば成就せり

(『正像末和讃』)

## 編集後記

親鸞教学第七十号をお届けいたします。

今号では、神戸和麿先生は、『論』『論註』の五念門行を通して、穢土を超えて浄土へ歩むということが人間に起こることということの根源を、法藏菩薩の功德の回施に尋ねておられます。

藤場俊基氏と内藤円亮氏は、日頃の研究の成果を発表してくださいました。

また、昨年度の真宗学会大会での広島大学教授の古東哲明先生と安藤文雄先生の講演を掲載いたしました。古東先生は、「共に在ること」の「凄まじさ」という言葉で、共に在ることを当たり前にしていることに対して、大きな問題提起を下さいました。また、安藤先生は、仏教が少しも身の上に証されないという、その現実を問うというところから「選択集」が始まっていることの重要さを指摘されながら、話を進められました。両先生共に、「共に在ること」「現実」という、自分にとって一番身近なところに、自分が明らかにしていかなくはならない根本問題があるのだということを教えてくださっているように思います。掲載に際

しまして、ご多用の中、加筆訂正くださいました両先生に、厚くお礼を申し上げます。

金子大榮先生は「自己を知らなければ、一切を知っていても、生活に根拠のないものとなるであろう」（『真宗の要義』）と述べられています。生活に根拠のないものとは、自己の依って立つ立脚地が明らかとなっていないものということでしょう。そしてその立脚地は、「自己を知る」という一事において開かれるのであることを、この文章は伝えてくれています。そのような「自己を知る」ということこそ、自己の急務であることが、あらためて思われます。（藤嶽）

1997年7月25日 印刷  
1997年7月31日 発行

親鸞教学 第70号 定価：本体 1,000円（税別）

京都市北区小山上総町22

大谷大学真宗学会

編集

親鸞教学編集部

発行

発行人 神戸和麿

大谷大学真宗学会 振替 01060-1-8225

京都市中京区寺町通三条上ル

文栄堂書店

発売

振替 01080-4-2948

京都市南区上鳥羽薬田29

中村印刷株式会社

印刷

電話 075-(682)-7666番

親鸞  
教学

第七〇号

一九九七年七月三十一日発行

大谷大学真宗学会